

1. 科目名 (単位数)	看護臨床実習指導 (2単位)	3. 科目番号	EDHE3378
2. 授業担当教員	面川 幸子		
4. 授業形態	グループワーク・ディスカッションを中心に、講義・発表・実技演習などで構成する。	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	「解剖学・生理学」を履修する。		
7. 講義概要	<p>本科目では、養護教諭を志す実習生が「看護学(救急処置を含む)」を中心とした既習の知識・技術等を活用して、主体的に看護臨床実習に臨む力を培うことを目指している。なお、養護教諭としての実践力を高めるためには、学校との連携が不可欠な、地域の医療を必要とする人々の理解や、医療現場、医療に携わる人々、専門性に基づいた看護業務に関する理解等が求められる。</p> <p>そして、看護は患者ではなく「その人」をみる。看護行為は専門性に基づいた意図的な営みであり、意図していなかった意味もある。本科目では、この考え方を基盤に、看護臨床実習の場で実習生が学びを得るために必要となる、基礎的知識や技術、態度や心構えなどを学ぶ。また本科目は、学生が主体的に学習課題を見出した上で、グループでの学びを自己課題へとつなげていくことができるよう展開する。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 養護教諭を志す学生にとっての看護臨床実習の目的を理解し説明することができるようになる。 2 養護教諭を志す実習生の心得と学び方や態度について学び、実践することができるようになる。 3 健康障害のある人々や、検査や治療を必要とする人々が体験している生活を想定し、看護の役割に関する自己の考えを記述することができるようになる。 4 看護臨床実習におけるその場で、実習生が意図的な「観察」や「参加・実習」をし、学びを得るための準備をすることができる。 5 看護臨床実習において、安全・円滑に実習が進み、より多くの体験やできることに向けて、基礎的な看護技術を体験し、学びと課題の自覚をすることができる。 6 看護臨床実習において、場や状況の理解ができるようになるために、医療現場の組織や設備に関することを学び、医療現場にある人的・物的資源を調べる方法を見出すことができるようになる。 		
9. アサシメント(宿題)及びレポート課題	<p>【レポート課題1】「養護教諭を志す自己が看護臨床実習において学びとりたいこと」</p> <p>【レポート課題2】「看護臨床実習場所(自己の実習場所)における自己目標と自己課題を述べ、その解決について考えを述べよ」1000字程度</p> <p>※ 提出期限については、授業中に提示する。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>中桐佐智子・岡田加奈子編著『養護教諭必携シリーズNo.5 改訂 養護教諭のための保健・医療・福祉系実習ハンドブック』東山書房。</p> <p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岡田加奈子・遠藤伸子・池添志乃編『養護教諭、看護師、保健師のための学校看護—学校環境と身体的支援を中心に—』東山書房。 ・藤井寿美子・山口昭子・佐藤紀久榮・采女智津江編著『養護教諭のための看護学』大修館書店。 		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 養護教諭を志す学生にとっての看護臨床実習の目的を理解し説明できるようになったか。 2. 養護教諭を志す実習生の心得と学び方への態度を理解し、実践することができたか。 3. 看護臨床実習におけるその場で、実習生が意図的な「観察」や「参加実習」をし、学び得るための準備をすることができているか。 4. 看護臨床実習において、安全・円滑に実習が進み、より多くの体験やできることに向けて、基礎的な看護技術を体験し、学びと課題を自覚することができたか。 <p>○評定の方法(下記を総合して成績評価をする。)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業への積極的参加態度(30%) 2. 授業ごとに提出する授業への振り返り(30%) 3. 小テスト・課題レポート(40%) <p>上記のほかに、本学の規定に定められている3/4以上の出席が単位の修得の条件であることをも配慮した。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>「臨床」とは? 「実習」とは? 養護教諭を志すあなた自身の人生の中で、「看護臨床実習」は、誰に、どのような意味があるのでしょうか。「臨床」には、その時、なぜ、どのような人々がいて、なぜ、養護教諭を志すあなたと出会うのでしょうか。そして現在、あなたは誰と共に、なぜ、何を学ぼうとしているのでしょうか。行為や動作の1つひとつには、どのような根拠や意味があったのでしょうか。本授業では、このようなことを考えながら本授業に臨んだ人としての学びを、授業への積極的参加度や受講態度・レポートの形で評価します。</p> <p>教員は、学生自身が学習目標を達成できるよう、知識や技術の伝達のみでなく、学生に向き合い、共に考え、悩み、学ぶ喜びを共に見出せるよう努めます。そして学生の中に、向き合う力・つなげる力・考える力・発見する力・表現する力が培われていくことを期待しています。</p>		
13. オフィスアワー	別途連絡する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ○オリエンテーション ・カリキュラムにおける本科目の位置づけ ・本科目の学習目標・学習内容・学習方法 ○「臨床」とは・「専門性」とは ○看護臨床実習の目的と意義 	事前学習	養護教諭取得を志す自分にとって、なぜ看護臨床実習に臨む必要があるのかを考え、発表できるようにしておく。(教科書 pp.8~14)
		事後学習	教科書を参考にしながら、自らが看護臨床実習に臨む目的について、まとめておく。
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ○看護臨床実習の方法 ・実習機関・実習内容・実習形態 	事前学習	教科書 pp.14-23を読み、どのように感じたかをまとめ、発表できるようにしておく。

	○「実習」とは・実習生の心得・学び方・態度 ○看護臨床実習に向けた自己課題	事後学習	養護教諭を志す自分が看護臨床実習において学びたいことについてまとめる。
第3回	○医療系施設の種類・病院の分類 ○病院の概要 ・病院の組織・医療従事者・看護部門の組織 ・病院内の施設・設備 ○病院において看護臨床実習に臨むことの意味	事前学習	教科書 pp. 26-32 を読み、わかったこと、わからなかったことを、発表できるようにしておく。
		事後学習	自分が病院実習で学ぶべきと考えることについて、まとめておく。
第4回	○看護過程・看護記録について ○各診療科に共通して見学・参加可能な実習内容について	事前学習	教科書 pp. 36-42 を読み、わかったこと、わからなかったことを発表できるようにしておく。
		事後学習	教科書 pp. 43-45 を参照し、看護臨床実習に向けての自己学習課題をまとめておく。
第5回	○各診療科における看護臨床実習① ・グループ学習課題の決定 ・グループワーク：第8回・9回の発表に向けての学習計画	事前学習	教科書 pp. 44-74 に目を通し、取り組みたいグループ学習課題を2つ決めておく。
		事後学習	グループワークを通しての自己学習課題に関する学習をしておく。
第6回	○各診療科における看護臨床実習② (グループワーク) ・調べてきた知識や学びの共有 ・発表に向けた準備	事前学習	グループワークに向けて必要な資料を準備し、説明できるようにしておく。
		事後学習	グループワークを通しての、発表に向けた自己学習課題に関する学習をしておく。
第7回	○各診療科における看護臨床実習③ (グループワーク) ・調べてきた知識や学びの共有 ・発表に向けた準備	事前学習	グループ発表における質疑応答も踏まえた準備をしておく。
		事後学習	グループワークに向けて必要な資料を準備し、説明できるようにしておく。
第8回	○各診療科における看護臨床実習④ (グループ発表：「小児科」「精神科・心療内科」「内科」「整形外科」「眼科」「歯科口腔外科」「耳鼻咽喉科」「皮膚科」「産科・婦人科」「(その他)」などのグループごとに、次の学習内容を発表する。 ・当該診療科の特色・実習の目的と目標(外来と病棟) ・実習の内容(外来と病棟)・学校保健に関する症状・疾患、及び検査・治療について ・看護師が目指していると思われること ・養護教諭を目指す学生が学びとるべきと考えること	事前学習	グループ発表における質疑応答も踏まえた準備をしておく。
		事後学習	グループ発表での学びを想起しながら教科書 pp44～74 を読み、自己学習課題を明らかにしておく。 また、健康障害のある人々や検査や治療を必要とする人々の生活体験と看護の役割についてワークシートにまとめる。
第9回	○各診療科における看護臨床実⑤ (グループ発表：「小児科」「精神科・心療内科」「内科」「整形外科」「眼科」「歯科口腔外科」「耳鼻咽喉科」「皮膚科」「産科・婦人科」「(その他)」などのグループごとに、次の学習内容を発表する ・当該診療科の特色・実習の目的と目標(外来と病棟) ・実習の内容(外来と病棟)・学校保健に関する症状・疾患、及び検査・治療について ・看護師が目指していると思われること ・養護教諭を目指す学生が学びとるべきと考えること	事前学習	グループ発表における質疑応答も踏まえた準備をしておく。
		事後学習	グループ発表での学びを想起しながら教科書 pp44～74 を読み、自己学習課題を明らかにしておく。 また、健康障害のある人々や検査や治療を必要とする人々の生活体験と看護の役割についてワークシートにまとめる。
第10回	○保健系施設、福祉系施設における実習 事業内容・専門職員などの機能と役割	事前学習	教科書 pp83～134 を読み、学習課題に関する内容に関して発表できるようにしておく。
		事後学習	保健系施設、福祉系施設の機能や特色をまとめておく。
第11回	○看護臨床実習に向けて見出した課題に関する学習① (ベッドメイキング・環境整備等を想定)	事前学習	予定の学習課題に関する内容に関して、教科書等の該当部分を読んでおく。pp145～149
		事後学習	教科書や既習科目の該当部分、その他の文献を参照しながら授業での学びをふり返り、自己課題をまとめておく。
第12回	○看護臨床実習に向けて見出した課題に関する学習② (着脱関する援助・移送・体位変換等を想定)	事前学習	予定の学習課題に関する内容に関して、教科書等の該当部分を読んでおく。
		事後学習	教科書や既習科目の該当部分、その他の文献を参照しながら授業での学びをふり返り、自己課題をまとめておく。
第13回	○看護臨床実習に向けて見出した課題に関する学習③ (身体計測・フィジカルアセスメント・無菌操作・包帯法等を想定)	事前学習	予定の学習課題に関する内容に関して、教科書等の該当部分を読んでおく。
		事後学習	教科書や既習科目の該当部分、その他の文献を参照しながら授業での学びをふり返り、自己課題をまとめておく。
第14回	○看護臨床実習に向けて見出した課題に関する学習④ (看護の専門性・看護業務・医療用語・医療機器・医療設備等を想定)(本学の実習日誌を含む)	事前学習	予定の学習課題に関する内容に関して、教科書等の該当部分を読んでおく。pp184～
		事後学習	教科書や既習科目の該当部分、その他の文献を参照しながら授業での学びをふり返り、自己課題をまとめておく。
第15回	○看護臨床実習の目標の明確化 ○看護臨床実習に向けての自己課題の明確化(本学に実習日誌を含む) ○看護臨床実習記録の書き方・評価の仕方 ○看護臨床実習に臨む上での心構え ○本科目全体を通しての学びの想起(まとめ)	事前学習	現在の自分が考える看護臨床実習の自己目標および自己課題をまとめ、発表できるようにしておく。
		事後学習	授業での学びを踏まえて、看護臨床実習の自己目標および自己課題を新たにまとめる。

